教育開発支援委員会

授業内容・教育力アップに 全学挙げ組織的に取り組む

浅見 和彦委員長に聞く

「教育開発支援委員会」は、07年7月に、「FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会」から名称がかわり、授業内容や教育力の改善に組織的に取り組む動きをより一層進めている。浅見和彦同委員会委員長に活動状況をうかがった。

授業内容や方法の改善については、個々の教員の努力にゆだねられてきましたが、大学全体として取り組むことで、本学での「学びの質的保証」をしようというのが、委員会の活動目標です。

06年度に、授業改善の方法や事例を相互に学び普及させていくため、改善事例のアンケート結果をもとに『授業のツールボックス（第1版）』を発行しました。07年度の第2版では、実践例や「私の授業」紹介などを掲載し、現在、学部などでの組織的な授業改善の取り組みの内容を重視した第3版の発行を準備しています。大学基準協会からも「ユニークな試み」とした。さらに、経営学部では「公開授業週間」を設けるなど、学部ごとの取り組みも見られます。授業をオープンにすることで教員には緊張感が出ますし、すぐれた授業方法を参考にして取り入れることで大学全体の教育力アップにつながります。

08年度は、ポータルシステムや授業支援のためのRENANDIの利用法、視聴覚機器の活用例について、新任の先生方に解説する研修会を初めて開き、大変好評でした。今後は、教員向けハンドブックを作成し、全教員向けの研修会を開催することも検討したいと思います。

「公開授業」は今年度16人の教員の協力を得て、全学部と教養科目で行われまして評価を受けており、将来的には公刊できるようにしたいと思います。

▶▶ 加藤浩平経済学部教授の公開授業 新任の先生方を対象とした研修会

一体となって委員会をつくり、結果を公表している法学部の先駆的な取り組みもあり、授業評価の動きは活性化しています。その一方、ポータルサイト、ホームページで公開している法学部以外は論集や教員向け報告書への掲載にとどまり、また一部の学部では公表の時期が遅いという問題点があります。結果をフィードバックして改善につなげる方法を構築していかなければなりません。

いわゆる2006年問題を契機に導入した「基礎学力テスト」は、08年度で4回目となり、結果は教養の英語のクラス分けや商学部の基礎数理のクラス分けなどに活用しています。結果を見る限り、2006年問題の影響は確認できません。学部・学科、科目、入試区分別のデータを分析し、また入学後の成績との相関関係などを継続的に調査していく予定です。

08年4月からの改正「大学設置基準」の施行と同時に、専修大学の学則も成績評価と卒業認定の客観性・厳格性の確保を規定しました。現在、委員会では本学における成績評価の現状について明らかにし、課題を提言する準備を進めています。

これからも、全学的な理解を高め、教育支援力を専修大学の強みとして新たな価値にできるよう、委員会は活動を続けていきます。教職員と学生が

教員・学生双方向で「授業評価」

法学部「学生による授業評価」実施委員会・重田委員長（法3）

法学部「学生による授業評価」実施委員会は、法学部FD委員会（委員長＝深澤民司法学部教授）の委員ら教職員と学生が一体となって活動している。「学生の『ナマ』の声を集め、より良い授業とキャンパスライフを実現したい」と集まった14人の学生を束ねる08年度委員長の重田達郎さん（法3）に話を聞いた。

アンケートは前期と後期の2回実施しています。手軽に回答してもらおうとウェブでのアンケートも検討したのですが、もともと「授業に出席している学生」の声を集めることを目標に始めたことなので、08年度は従来通りのやり方で行いました。

自由記述欄に書かれた主なものは、『法学部フォーラム』に掲載していますが、最も多かった意見は「キャンパスの教育環境改善」でした。ゼミ仲間で話し合いたいときなど、気軽に集まれる場が少ない神田キャンパスには、学生のくつろげるスペースが必要だと感じています。記述データは多数意見、少数意見に分けてまとめて掲載し、マーク回答データは、教員・学生のニーズに合わせた分析ができるように、グラフを用いて情報を読み取れるようにしました。

月1回の委員会の前に学生だけのミーティングを開き、意見交換を活発にしたのも今年度の特徴です。私は法律学科ですが政治学科の委員の考え方の幅広さには、新鮮な驚きがあります。異なった考えが混じって、新たなアイデアが生まれてくる感覚は面白いですね。

昨年度からの懸案事項だったホームページ作成が遅れていますが、委員会活動の認知向上のためにも早急に完成させたいと思います。また完成した際には、多くの学生から寄せられた「担当教員へのメッセージに対する回答を文章でほしい」という要望にこたえるため、教員が任意でコメントできる欄を設けることを検討しています。学生から委員会への質問に対しては、専修大学ポータルに回答を掲載しました。アンケートを実施するだけでなく、双方向のやり取りを通じて、認知度と信頼性を上げていきたいと考えています。

高大連携

10月から12月にかけて高大連携協定校を中心に活発な連携活動を行い、高校生の興味や関心の幅を広げ、進路選択の参考にしてもらう機会などを提供した。

【都立若葉総合高校】（写真❶）

10月22日、「総合的な学習の時間」を利用した「上級学校訪問」に07年に続き協力。1年生7人が商学部の石川和男准教授のゼミの様子を見学した。

【県立神奈川総合高校】

10月31日、校外学習を通じて最先端の研究に触れる「個別体験学習」に協力。1年生2人、2年生1人が砂原由和ネットワーク情報学部教授（高大連携連絡協議会座長）から教育基礎学の講義を受けた。

11月8日に同校で行われた連携科目の授業では狐崎知己経済学部教授が「グローバル学習」と「スペイン語」を講義した。

【県立荏田高校】（写真❷）

11月4日、教職員対象の「キャリア研修会」で池本正純キャリアデザインセンター長が本学のキャリア教育の実践について講演。同センター主催のさまざまな取り組みに参加しているゼミ生の関口愉香さん（4年次）、猿田香織さん（3年次）も同席し、大学生活とキャリアについて経験から得たものを話した。活発な質疑応答も行われた。

【県立麻生高校】

11月6日、1年生全員を対象とした「1日体験入学」で、寺尾格経済学部教授の模擬授業、学生引率のキャンパス見学などが行われた。（写真❸）

11月7日には同校で、片桐一彦文学部准教授が模擬授業づくりなどに協力した同校英語科教員対象の教科研修会が行われた。

【県立川崎高校】（写真❹）

11月14日、1年生全員を対象とした「1日体験入学」で、嶺井正也経営学部教授の模擬授業、学生引率のキャンパス見学などが行われた。

【県立ひばりが丘高校】（写真❺）

12月10日、国際教養コース2年生を対象とした「1日体験入学」で模擬授業、キャンパス見学などが行われた。国際交流プログラムでは、ペットボトルのキャップ回収でのワクチン援助や、フェアトレード活動に取り組む国際交流団体「S・I・A」のメンバーがカンボジアのゴミ山でのボランティア活動を紹介した。

❸

❹

❺

❶

❷